

科目名	心理学ⅡB							学期	後期
副題	—				授業方法	講義	担当者	上野和久	
ナンバリング	N1-10-230	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3. 動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4. 動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5. 性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6. 性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7. 性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11. 対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12. 対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13. 対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的な手抜き・集団規範＞
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

テキスト

梅本堯夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

津太子、森公美子編著『心理学概論』、放送大学テキスト 斎藤 勇編 『図説心理学入門』 誠信書房、梅本堯夫、大山正著『心理学への招待 ころの科学を知る』サイエンス社

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解する。
- (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。
- (A) 心理学の基礎理論が全般を説明できる。
- (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験(active learning)を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ゲシュタルトセラピスト125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場としたい。